

「駿河台大学教育研究」創刊にあたって

わが国は現在、国内的には、少子高齢化による人口構造の変化に伴う労働力確保や社会保障制度のあり方等の社会問題が深刻化しています。国際的には、外国人労働者の受け入れ問題にみられるようにグローバル化が進行する一方で、自国第一主義的動向が拡大し、政治面、経済面での混乱が続いています。産業分野では、人工知能や情報通信技術、ロボット産業の発達等により、生活様式や働き方だけでなく、産業構造自体も大きく変わろうとしています。

このような状況において、高等教育機関としての大学には、様々な社会問題に対応するため、これからの社会を担うべき「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力をもった人材」の育成が求められています。この目的を実現するためには、大学は、育成すべき人材像（ディプロマ・ポリシー）を明確にし、その教育に必要なカリキュラムを提供するとともに、これらの力の修得に必要な教育方法、教育体制、教育環境を充実させる必要があります。

本学は、創立以来、建学の精神である「愛情教育」の実現を目指した教育を実践してきました。そして、平成28（2016）年の創立30周年を機に、「駿河台大学グランドデザイン2021」を策定し、達成すべき目標として、「駿大ブランドの構築・強化」を掲げ、「教育力の駿大」の実現を重点課題としてきました。

この目標に向け、教育面では、全学研修会や第三者によるシラバスチェック、授業アンケートの実施・分析に基づく授業改善等、教育の質向上のための取組を全学的に行っております。しかし、これらの教育活動は、個別の課題解決に向けられることが多く、ともすれば教員個人の熱意と工夫に委ねられる傾向がありました。

そこで本学では、大学全体の組織的な教育改善を進め、教育力の強化を目的に、平成28（2016）年4月、教育に関する研究及び調査を行う「駿河台大学教育研究センター」を開設致しました。本センターの研究活動は、大学が指定する題目に即した「指定型研究プロジェクト」と、教員の発意に基づく「公募型研究プロジェクト」として行われます。その研究成果は、本紀要により公表されるだけでなく、研修会やワークショップ等を通じて、個々の教員に共有され、授業等に利活用されることを目指しています。

今回の「駿河台大学教育研究」の創刊により、本センターの研究成果が本学の教育力の強化に資するとともに、学外にも周知され、わが国の教育の質の向上に少しでも貢献できれば望外の喜びであります。

最後になりましたが、本センターの研究活動に携わり、本紀要に投稿された教員、公刊にご尽力いただいた職員その他の関係の皆様にご心より御礼申し上げ、創刊のご挨拶とさせていただきます。

平成31（2019）年1月

駿河台大学 学長 吉田恒雄